大森六中だより

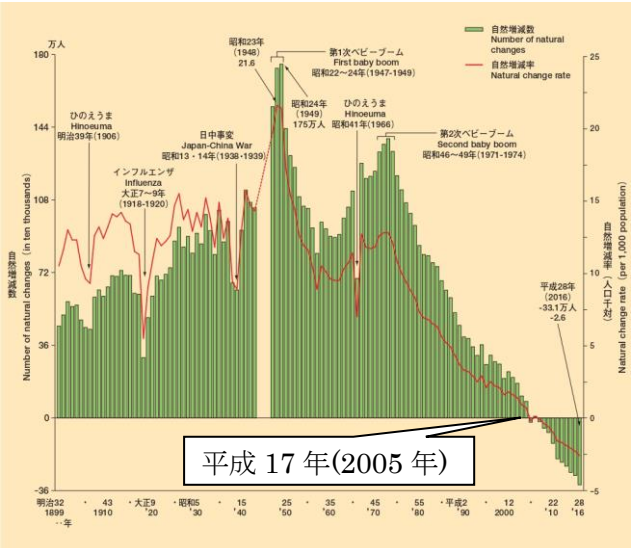
令和４年　　７月号
大田区立大森第六中学校
統括校長　　菅野 哲郎
TEL　　3726－7155

今、何ができるかを考える

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

7月11日は世界人口デーでした。これは今から35年前の1987年に世界の人口が50億人を超えた事を記念して1990年に国連で定められました。そして今、2021年の人口は前年より約7900万人増えて、約79億5400万人です。今年はいよいよ80億人を突破しそうです。食糧危機の問題などから人口が増えることは決して良いこととはいえませんが、一方で我が国、日本の人口は減少しています。電気自動車企業テスラの共同創設者、CEOで、最近はツイッター社を買収するとかしないとかで騒がれているイーロン・マスクさんは今年の５月８日にツイッターで、「出生率が死亡率を超えるような変化がない限り日本は消滅するだろう」とつぶやいています。

なんともショッキングな発言ですが、それを裏付けるようなデータが存在します。左下の図は厚生労働省がホームページに掲載している人口動態統計のグラフです。横軸は明治32年から平成28年までを表し、棒グラフは人口の自然増減数、線グラフは自然増減率を示しています。第２次ベビーブームを境に、増加数・増加率は下がり続け、平成17年(2005年)から日本の人口は減少を続けています。そして平成28年以降も減少数は増え続け、昨年は史上最高の62万人以上減少しました。また、高齢化も加速し、2045年には65歳以上が4割以上を占める地域が19道府県に及ぶと予測されています。



人口減少や高齢化の進展によって、日本の産業や経済が衰退することは容易に想像できます。イーロン・マスクさんのつぶやきは決して看過できません。

人口減少や高齢化に歯止めをかけるには、子育てし易い環境づくりなどに政治の力が必要です。最近では子ども家庭庁も新設されました。一方で、子育てを地域コミュニティで担う動きや子育てしながら働くことができるように託児所を設ける企業も増えています。このように、一人一人ができることを考え実行に移すことが重要です。

本校では、今、SDGｓのために、現代の課題を知り、できることを考える「シビックアクション」という授業を行っています。詳しくはホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/81-1a2.pdf

ユネスコスクール　7月号

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校　研修ユネスコ委員会

シビック・アクション

文部科学省科研費研究のシビック・アクションが今年度から始まりました。第１回目は、国士舘大学特任講師森朋子氏を講師としてお招きし、総合的な学習の時間の授業を全校で行いました。各クラス代表生徒３名、計３３名で対面授業を行い、他の生徒はリモート参加しました。

第１回目の授業は、「環境問題を解決するアクションを考えよう」というテーマでした。本校生徒はこれまで SDGｓについて学んできました。そして、生徒会や農援隊を中心に様々な活動を行っています。しかし、特に環境問題への取組では、「節電する」「ゴミを拾う」などのアイデアにとどまっています。環境問題の解決の為には、問題を引き起こしている社会のしくみやルールを改善したりすることが必要です。ところが、生徒はそこまで考えが至りません。そこでこの学習では、根本治療となる方法を模索し、より多くの人と協力して行動できることをねらいとしています。授業後の生徒のワークシートからは「みんなと新しく考えた対策を共有し、こんな考えもできるんだ！とわくわくしました。みんなが話し合うことで良いアクションが生まれると思います。」「今日初めて１０００人という大勢の人々を巻き込んで活動する対策を考えていくことが大切だと思った。」という記述も見られました。

第２回目の授業は、実際に気候変動にとりくんでいるロンドン大学大学院生　一般社団法人 SWITCH 代表理事の佐座槙苗さん、NPO 法人気候ネットワーク東京事務所長　桃井貴子さんのお二方に来ていただき、シビック・アクションをおこすきっかけとなるエピソードや、実際に行っている活動を披露していただきました。

若者世代(Z 世代)が起こせる風、専門家が立ち向かう波について具体的な話を聞きながら、生徒はわくわくしていました。１，２年生は２学期からもシビック・アクションを起こすための具体的な方策を考えます。わくわくする姿が楽しみです。

この言葉、あなたはどう受け止めますか？

・世界最新鋭の石炭火力発電所は環境にやさしい

・電気自動車はCO_2を排出しない

・水素・アンモニア燃料が地球環境を救う

世界の気候アクションは今、
“グリーンウォッシュ”との闘いでもある

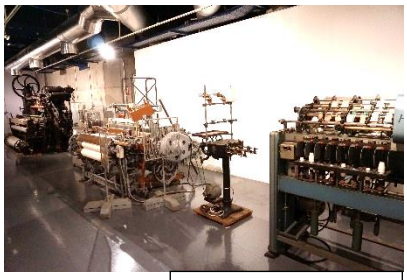
第一学年社会科見学

「同心協力」

景観まちづくり学習

６月１５日に、第一学年初の学年行事、社会科見学が実施されました。一年生は「大田の企業ものづくり」や「外国との繋がり・物流・科学技術」など、多様なテーマからなるゼミに分かれて、都内の企業や公共事業所を訪問しました。訪問先では、この街で活躍されている方々に直接インタビューをすることを通して、自分たちが暮らす地域の様々な面を学ぶとともに、持続可能な社会の担い手としての自覚を養うことができました。

アルプスアルパイン（株）



東京工業大学博物館

ユニセフハウス

その他、全２４か所の企業・公共事業所の皆様にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。

そなエリア東京

同日には、防災学習施設「そなエリア東京」を訪れました。体験学習を通して、震災を「自分ごと」としてとらえ、有事に際して自分たちができることが何かを考える機会となりました。

社会科見学を通して、学年目標でもある「つながり」を深めた一年生たち。子どもたちがこれから先どのような学年を作っていくのか、あたたかく見守ってください。

第二学年　職場体験

７月５日から７日までの３日間、３年ぶりに３日間の職場体験を行いました。飲食・教育・幼児教育・福祉・サービス・販売など、全５７か所の事業所にお世話になりました。普段見えていないところでも多くの仕事があり、それぞれで工夫がされていることを実感できました。

スーパーなどの販売店舗では品出しや接客について学びました。

サービス業は事業所ごとに専門的な知識や技術が多くありました。

児童館や保育園・幼稚園・学校では掃除や準備など、子どもと接する以外の仕事も体験しました。